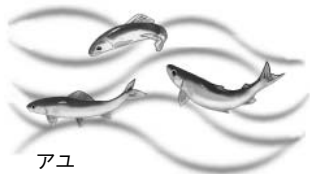


☆公害による健康被害を許すな!
☆自然環境・生活環境の破壊を許すな!



大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会

〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19
内本町松屋ビル10 370号
TEL 06-6949-8120
FAX 06-6949-8121
E-mail : oskougai@coast.ocn.ne.jp
URL http://oskougai.com/
発行責任者 金谷 邦夫
年間購読料一部2,000円(送料共)
郵便振替 00910-7-300387

第16回環境学校開かれる

震災・津波と安全・安心のまちづくり

「原発」とベイエリア開発の実態を学び合う

9月3～4日、台風12号の影響で開催が危ぶまれていましたが、幸いにも台風は西にそれ、大阪は雨も風もほとんどなかったため、第16回環境学校は2年ぶりに住之江区の南港で予定通り開催されました。

1日目は会場いっぱい約49名が参加し、金谷邦夫環境学校長の開会あいさつの後、さっそく授業開始。今回は東日本大震災の直後でもあり、震災・津波、



街づくりをテーマにした「東日本大震災と東南海・南海地震」「大阪の防災と安全・安心の街づくり」という2つの講義を受け、質問も次々に出されるなど議論も大いに弾みました。

2日目は参加者数が23名へと若干減りましたが、同じく大問題となった原発問題、そして、関西財界がすすめる大阪湾の開発の実態をテーマに、「福島原発事故と関西の原発」「大阪湾ベイエリア開発の実態」の二つの講義を受け、じっくり学び合いました。

第16回環境学校は、「この2日間で学んだことを、自分だけに留めずまわりに広めよう」との金谷邦夫環境学校長のあいさつで閉会しましたが、その後には課外授業として2日目の午後、斉藤さんと同じく元大阪市役所労組の松本さんの案内で「WTCはじめとする南港ウオッチング」を行い、WTC47階から夢洲・舞洲・南港を一望しながら「ベイエリア計画」の説明を再度見聞しました。東日本大震災

時のWTCの損傷跡の見学や周辺ウォッチングで、大阪市のムダ使い・防災問題について改めて理解を深めました。

全日程を参加した測定研の喜多善史さんは「今回の環境学校は、情勢に相応しい地震と原発のテーマが田結庄・芹沢両講師

講演の主な内容

東日本大震災と東南海・南海地震

田結庄良昭(神戸大学名誉教授)

最初に、人類は地球の11%の深さしかわかっておらず、「わからない事を伝えることが大事」と切り出されました。3月11日の東北地方三陸沖地震は、震源の深さは約24キロと浅くM9、南北方向は500キロ、東西方向の幅は200キロの広い領域で破壊が進み、巨大地震となった。津波は海底の隆起や沈降で生じた通常の巨大地震の逆断層は約2メートル程度の隆起だが今回は約5メートル

大阪の防災と安全・安心の街づくり

中山 徹(奈良女子大学教授)

20世紀のまちづくりを、世界でも例のない人口の急増(4000万人から1億2000万人へ)・若年層増大(高齢化率5%)、大工場・大規模オフィス、(次ページ4段目につづく)

によって丁寧に解説され、理解を深めることが出来た。中山講師の「わが国の人口減少を見据えた都市の計画的縮小と環境復活」の提案は、自然エネルギーの利用拡大と結びつけて実現したいと思った」と感想を語っていました。(中森芳明)